

JASDAQ

銘柄略称: ACKG

証券コード: 2498

平成26年9月期 第2四半期 決算説明会

平成26年5月30日
代表取締役社長 野崎 秀則

 株式会社
ACKグループ



プレゼンテーション・アウトライン

- I： ACKグループのご紹介
- II： 今回の決算説明会のポイント
- III： 平成26年9月期 第2四半期業績・成果ハイライト
- IV： 平成26年9月期 通期業績見通し
- V： 今後の展開 ー中期経営計画ACKG2013強化骨子ー

質疑応答

APPENDICES

ー主要トピックス、連結決算詳細

I : ACKグループのご紹介



ACKグループのあゆみ

(株)オリエンタルコンサルタンツを中心に、
確実に成長してまいりました。

昭和32年～ (1957年)	○株式会社オリエンタルコンサルタンツ創立 (道路、鉄道等のコンサルタント事業で発展)
平成11年～ (1999年)	○オリコンサルグループを形成し、グループ経営を開始
平成18年～ (2006年)	○オリコンサルグループを継承し、株式会社ACKグループを創立 ○株式会社オリエンタルコンサルタンツの海外事業を大幅に拡大 ○グループとしての価値観を共有できる、さまざまな企業の参画

昭和32年～
(1957年)



ORICONSUL



平成11年～
(1999年)



ORICONSUL
GROUP



平成18年～
(2006年)



ACKG

グループ会社の紹介

多様な専門技術を保有する5社を中心に運営しています。

会社名	創立	主な技術サービス・商品
(株)オリエンタルコンサルタンツ (略称「OC」)	昭和32年	交通・都市・地域・環境・構造・防災・ プロジェクトマネジメント など
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング (略称「ATK」)	昭和37年	地質・土質・地盤、構造物の調査・点検・設計、 さく井、地下水、建造物解体、施工 など
(株)エイテック (略称「ATEC」)	昭和43年	建設・交通に関する調査・設計・監理、 地理空間情報、交通計測機器企画・販売 など
(株)中央設計技術研究所 (略称「CSE」)	昭和22年	上下水道・廃棄物・環境の 調査・計画・設計・施工管理・維持管理 など
(株)リサーチアンドソリューション (略称「R&S」)	昭和53年	ソフトウェア開発・販売、総務・経理BPO、 車両管理BPO、人材マネジメント など

ACKグループの提供サービス(1)

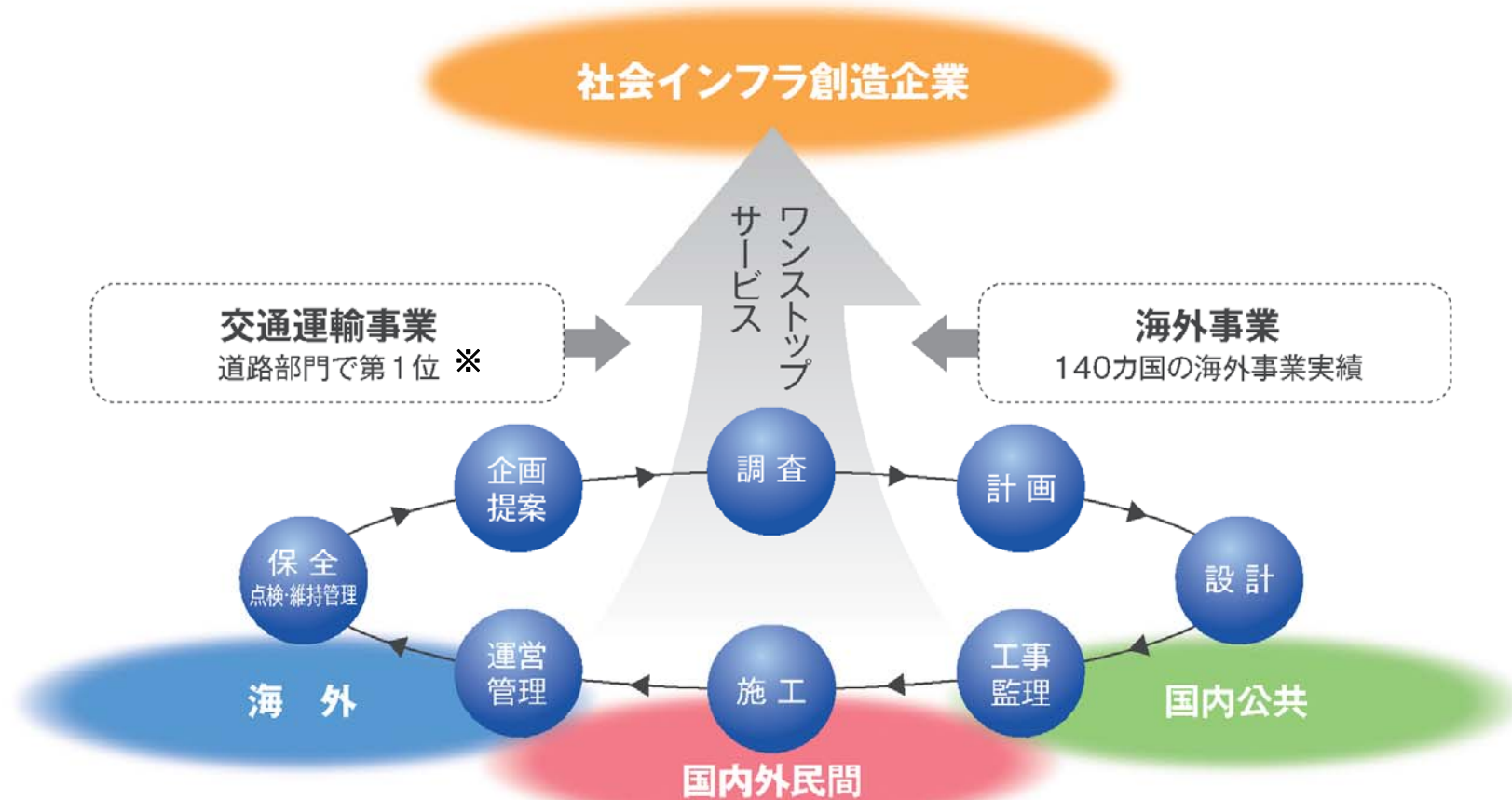
社会インフラを対象に、多様なサービスを提供しています。



【イメージ】ACKグループが対象とする主な社会インフラ

ACKグループの提供サービス(2)

交通運輸事業、海外事業の強みを活かし、
国内公共、国内民間、海外の3つの市場へ、
企画・提案から保全まで、ワンストップで提供しています。



※ 日経コンストラクション
平成25年9月号(日経BP社)より

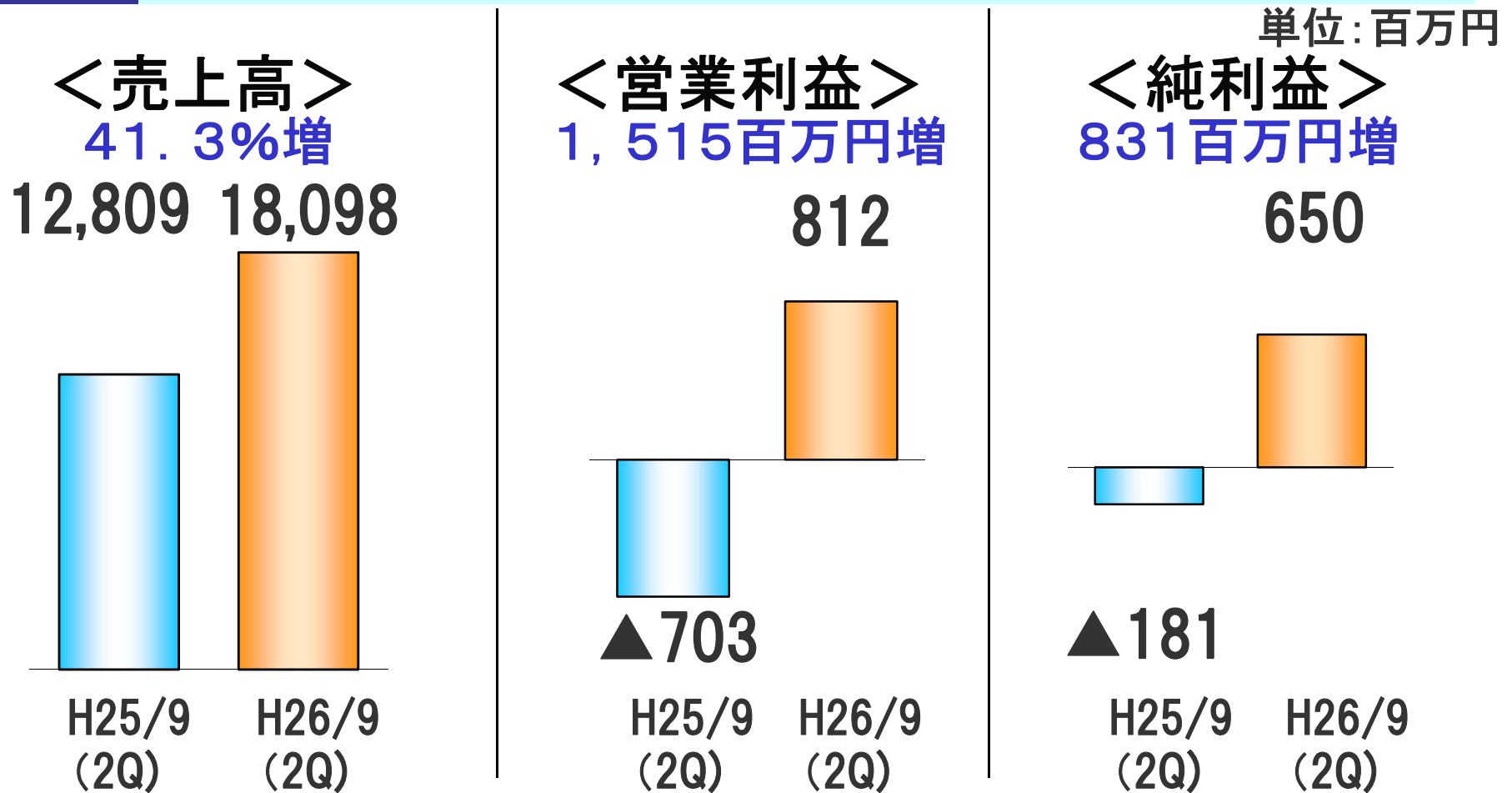
Ⅱ：今回の決算説明会のポイント



今回の決算説明会のポイント

1

売上・利益は前期比大幅増加

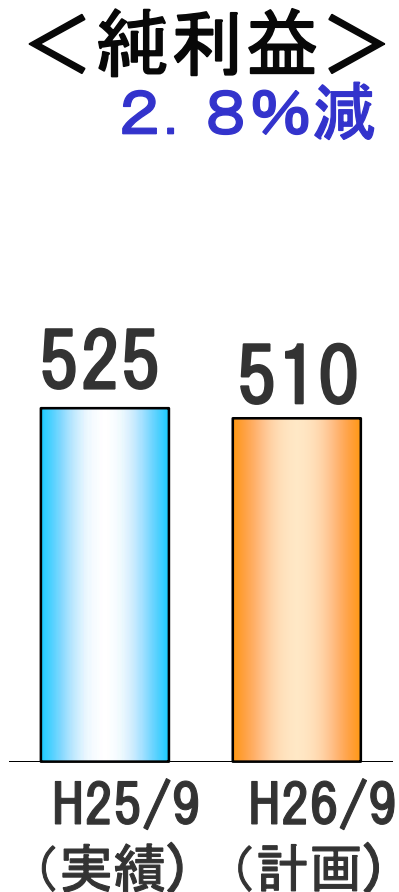
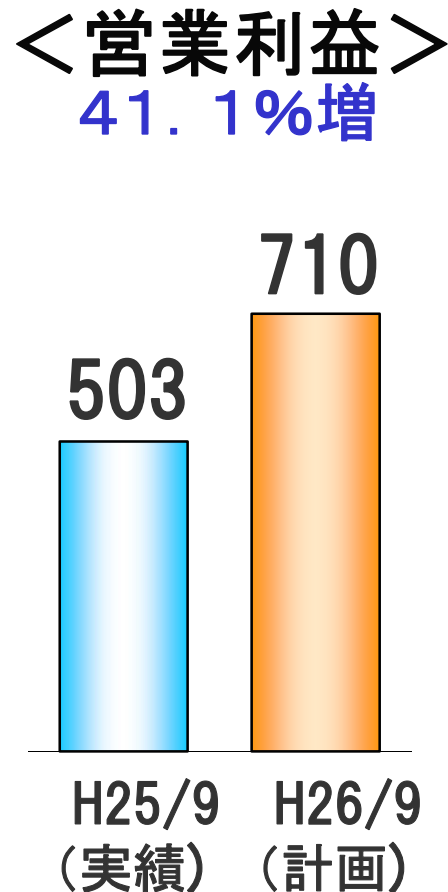
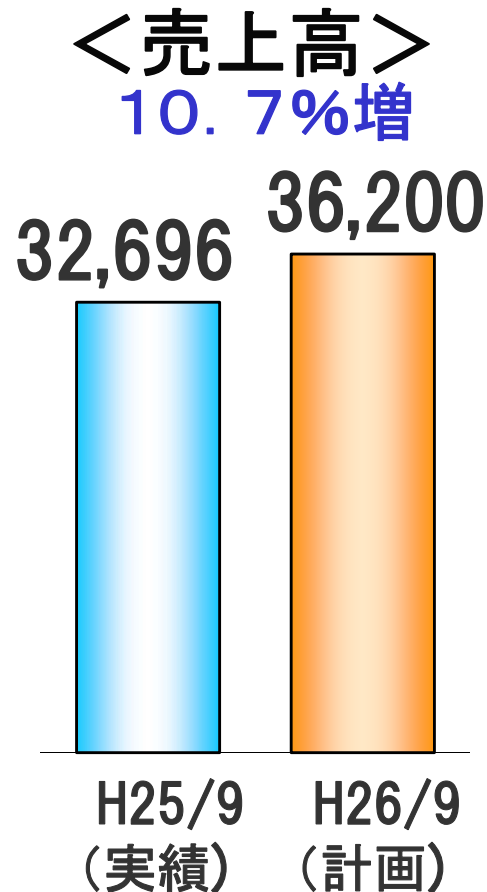


今回の決算説明会のポイント

2

通期業績は計画を達成の見込み

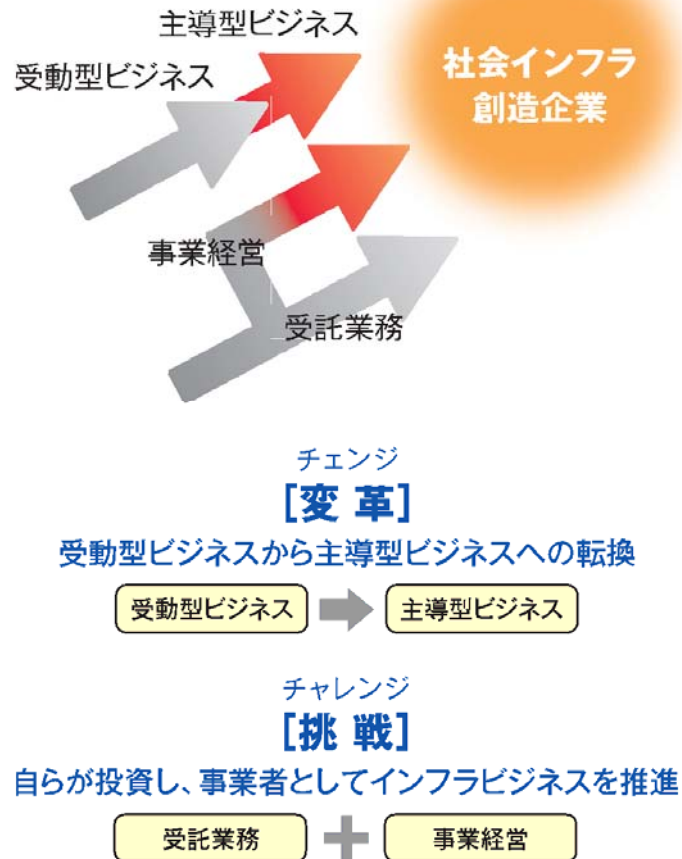
単位：百万円



今回の決算説明会のポイント

3

中期経営計画ACKG2013を強化

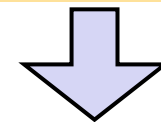


中期経営計画ACKG2013



中期経営計画ACKG2013の強化

- 個の強化
- 連携の強化
- 3軸市場の競争力強化



2020年のビジョン

Ⅲ：平成26年9月期 第2四半期業績・成果ハイライト



(1)業績:連結受注高

■前期比で約31億円(20.6%)増加

- 受注高は、海外事業の拡大により、大幅増加
- 受注残高も大幅に増加、今後の売上高に貢献

(百万円)

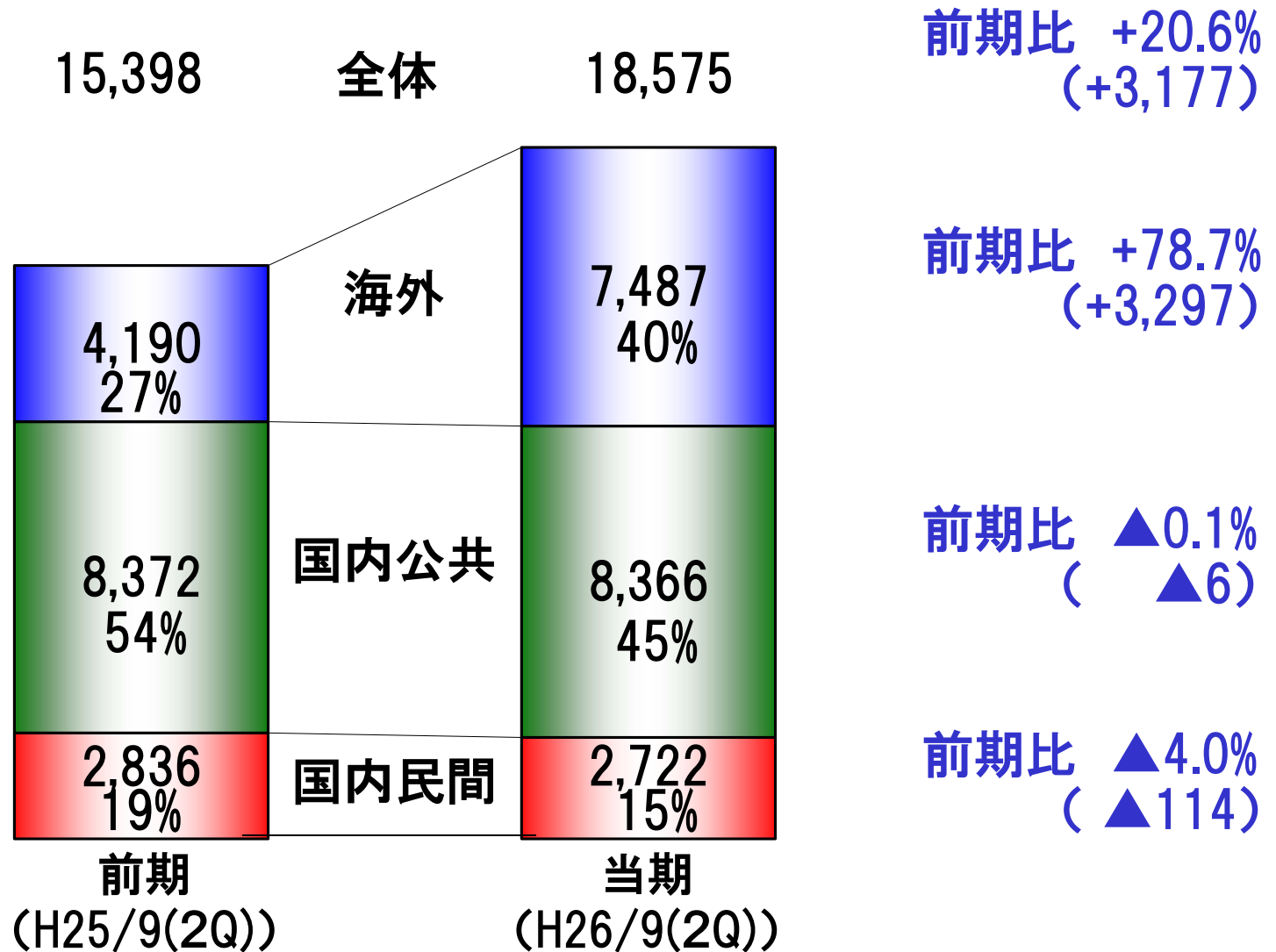
	前期 (H25/9(2Q))	当期 (H26/9(2Q))	増減	計画値
受注高	15,398	18,575	↑ + 3,177 (+20.6%)	—
受注残高 [※]	36,899	39,894	↑ + 2,995 (+ 8.1%)	—

※受注残高:受注済で売上対象となる契約総額

連結受注高 3軸市場別

■海外の受注高増加

(百万円)



連結売上高

■前期比で約53億円(41.3%)増加

➤ 売上高は、受注残高の増加と生産体制の強化により、大幅増加

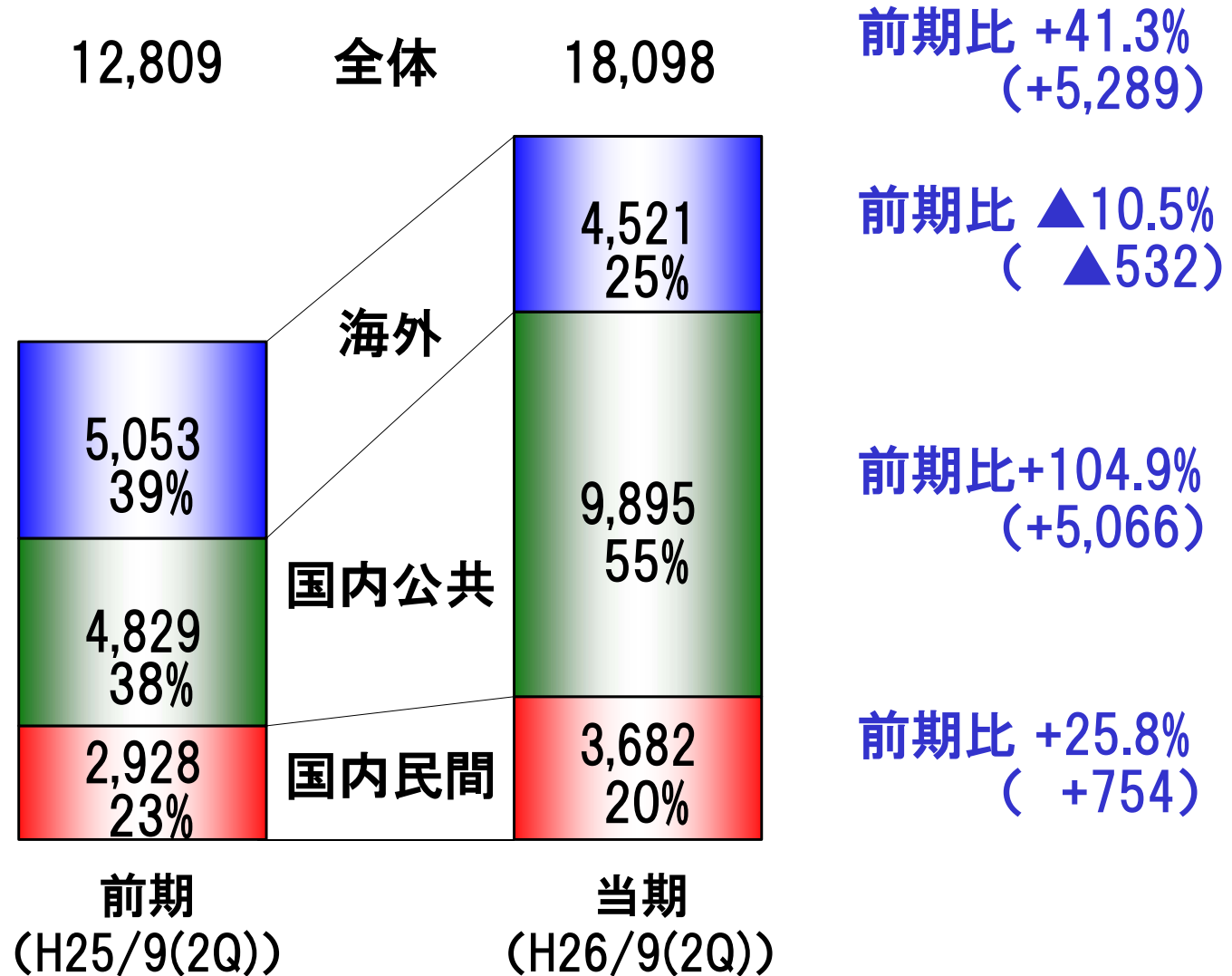
	前期 (H25/9(2Q))	当期 (H26/9(2Q))	増減	計画値
売上高	12,809	18,098	↑ + 5,289 (+41.3%)	14,400

(百万円)

連結売上高 3軸市場別

国内公共、国内民間の売上高増加

(百万円)



連結損益

■営業利益、経常利益、当期純利益が増加

➤ 損益は、売上高の増加により、大幅増加

(百万円)

	前期 (H25/9(2Q))	当期 (H26/9(2Q))	増減	計画値
営業利益	▲703	812	↑ + 1,515	▲580
経常利益	▲525	870	↑ + 1,395	▲600
当期純利益	▲181	650	↑ +831	▲80

(2)成果:重点化事業

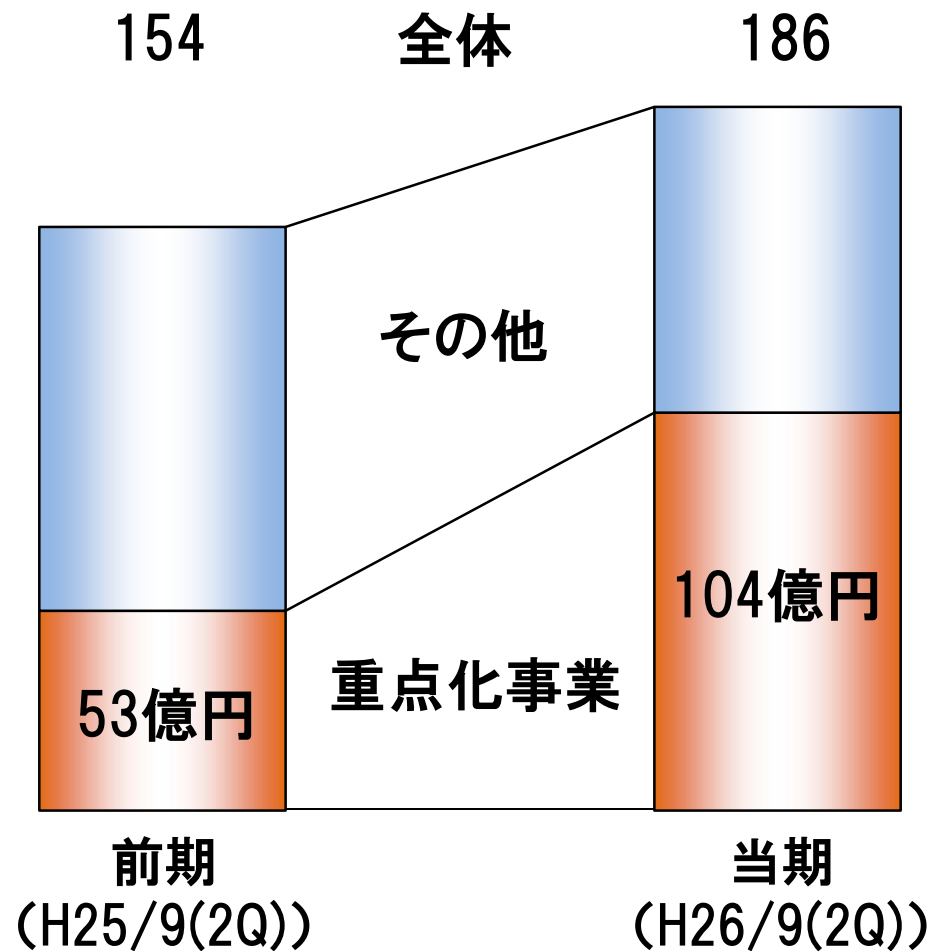
- 重点化事業に、「事業経営」「地域活性化」を追加
- 4つの個別事業と、4つの統合事業により新たな事業創造を推進



重点化事業

■8つの重点化事業を強力に推進し、事業拡大を加速

受注高
(億円)



重点化PJ

■52件以上の重点化プロジェクトを推進

重点化事業	平成26年9月期 重点化PJ	(参考)過去件数	
		平成25年9月期	平成24年9月期
① インフラ保全・運営管理	10	12	2
② 防 災	9	6	2
③ 再生可能エネルギー/スマートコミュニティ	8	7	4
④ 交 通(高度化・総合化)	8	5	2
⑤ 地域活性化	3	—	—
⑥ 海外新規開拓	5	4	1
⑦ 民間開発	6	4	2
⑧ 事業経営	1	—	—
⑨ その他	2	2	1
合 計	52件以上	40件	14件

重点化PJ(地域活性化)

取組み事例(抜粋)

■地域の未来をプロデュース:(株)オリエンタル群馬

- ・さまざまな自主事業で、地域と一体で地域活性化を推進

(群馬県前橋市)



まちづくりシンポジウム(平成26年2月)



■北九州市最大の公園、響灘緑地(グリーンパーク)の運営管理

- ・指定管理者として平成26年4月より運営を開始し、四季を通じたにぎわい拠点づくりなど地域活性化を推進

(福岡県北九州市)



響灘緑地(グリーンパーク)



重点化PJ(観光による地域活性化)

取組み事例(抜粋)

■ 空港利用外国人の立ち寄りを促す受入環境の整備

- ・外国人満足度の向上とウェイティング機能の強化を提案

(東京都大田区)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



銭湯など日本の魅力を紹介

■ 魅力的な食材を使いフードツーリズムを推進

- ・食観光日本一を目指す^{べつかいちょう}別海町の観光素材を分析し、着地型旅行商品を企画・造成

(北海道別海町)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



カメラ女子向けツアー

重点化PJ(防災)

取組み事例(抜粋)

■津波避難シェルター実施設計

- ・津波避難が難しい海岸沿いの急峻な箇所、全国初の横穴式津波避難シェルターを設計

(高知県室戸市)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



津波避難シェルター

■大規模水害時の避難計画検討支援

- ・荒川の堤防決壊を想定し、地区ごとの特性を活かした避難計画を提案

(東京都足立区)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



荒川堤防決壊時の浸水イメージ

重点化PJ(再生エネルギー/スマートコミュニティ)

取組み事例(抜粋)

■EV(電気自動車)バスの実証運行

- ・平成26年2月より、(株)東芝と共同で、港区コミュニティバス(ちいばす)路線でEVバスの実証運行を実施

(東京都港区)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



実証運行を開始した「EVバス」

■有明海沿岸道路の法面を活用した太陽光発電事業

- ・道路施設を災害時の緊急電源に活用する提案で、事業者に特定

(佐賀県 有明海沿岸道路)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL



道路法面の太陽光パネル(イメージ)

重点化PJ(交通の高度化・総合化)

取組み事例(抜粋)

■車録(シャーロック) & Dr.ワトソン

- ・車録 : ドラレコを活用した、ドライバーの安全運転指導
- ・Dr.ワトソン: ドラレコデータの収集・分析による、道路構造改良等、地域事故対策の提案



■横断者感知式注意喚起システム

- ・道路鍍とLED表示板でドライバーに注意喚起し、横断歩行者の安全に寄与 (高知県の国道で実導入)

(名古屋大学、外部企業との共同開発)



「横断者感知式注意喚起システム」の構成



重点化PJ(海外新規開拓等)

取組み事例(抜粋)

■ 台風30号(フィリピン名:ヨランダ)の災害復旧・復興

- ・東日本大震災の経験、教訓を活かし、被災地の災害復旧・復興を支援

(フィリピン)



暴風で屋根が吹き飛ばされた家屋

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL

■ 全国運輸交通計画の準備調査

- ・2030年を目標年次とした全交通モード(航空・道路・鉄道・内陸水運・海運)の運輸交通開発戦略を策定

(ミャンマー)



老朽化の進む交通インフラ

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL

育成と連携

◆基盤整備(国内)

■(株)トータルフリートサービスの設立【平成26年4月】

- ・(株)トータルフリートサービス、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)リサーチアンドソリューションが連携し、車両運行管理、安全運転に関するトータルサービスを実現



記者発表のようす

- 左:(株)オリエンタルコンサルタンツ 野崎社長
- 中央:(株)トータルフリートサービス 大西社長
- 右:株式会社リサーチアンドソリューション 美濃部社長

育成と連携

◆ 基盤整備(海外)

■ インド国デリー現地法人設立【平成25年6月】

- ・(株)オリエンタルコンサルタンツが得意とする軌道分野での大型円借款案件が予定されるなど、最重要な市場の一つ
- ・同国並びに近隣諸国でのローカルコンサルティング業務を展開



■ インドネシア国ジャカルタ現地法人設立【準備中】

- ・インドネシアは、(株)オリエンタルコンサルタンツの主要市場
- ・開発案件等の現地政府発注案件、民間開発案件の市場へ参入し、事業を拡大



■ ミャンマー国ヤンゴン現地法人設立【準備中】

- ・2011年の新政権発足後、民主化・経済開放の進展とともに経済制裁が大幅に緩和
- ・これからのインフラ整備が求められる同国において、コンサルティング事業展開の足がかりとする



IV：平成26年9月期 通期業績見通し



平成26年9月期 通期業績見通し

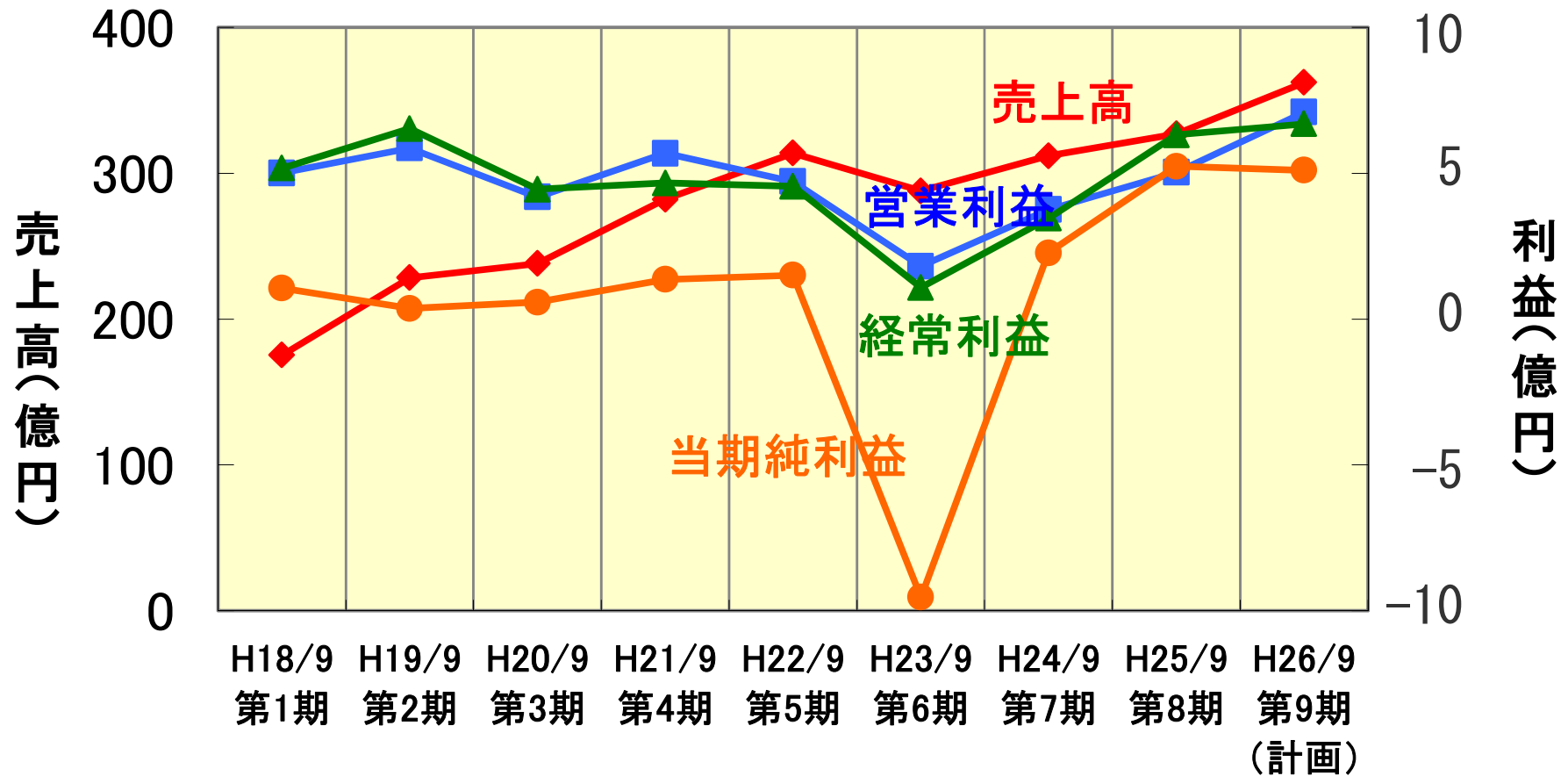
■ 中期経営計画ACKG2013の推進等により、業績計画達成の見込み

(百万円)

	H25/9月期 通期 実績値	H26/9月期 通期 計画値	増減
売上高	32,696	36,200	↑ +3,504 (+10.7%)
営業利益	503	710	↑ +207 (+41.1%)
経常利益	631	670	↑ +39 (+6.1%)
当期純利益	525	510	→ ▲15 (▲2.8%)

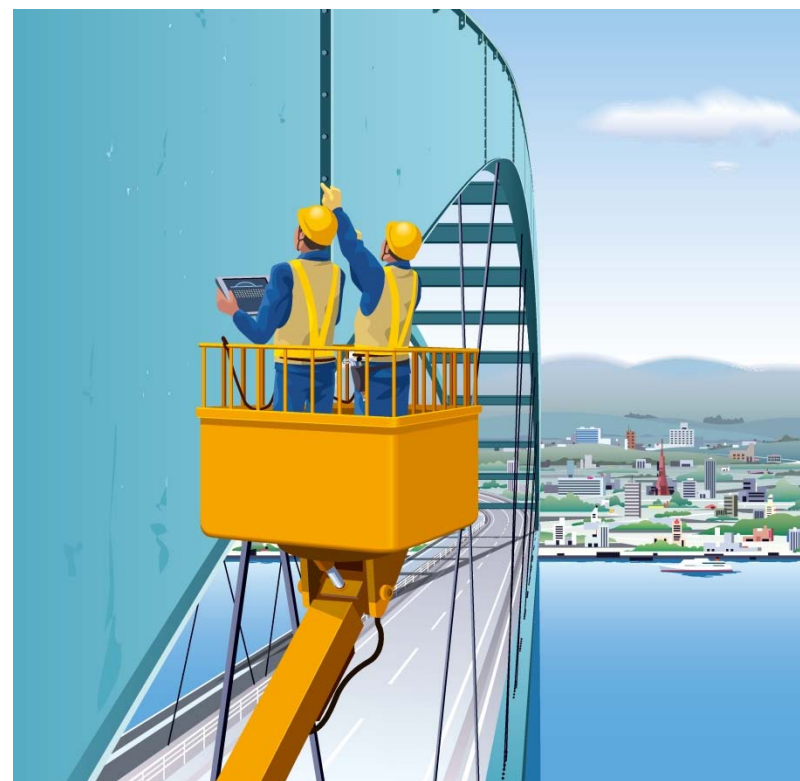
通期業績の推移

■ACKグループのさらなる成長を目指し、売上高、利益等の業績を拡大



V: 今後の展開

— 中期経営計画ACKG2013強化骨子 —





1. 中期経営計画ACKG2013

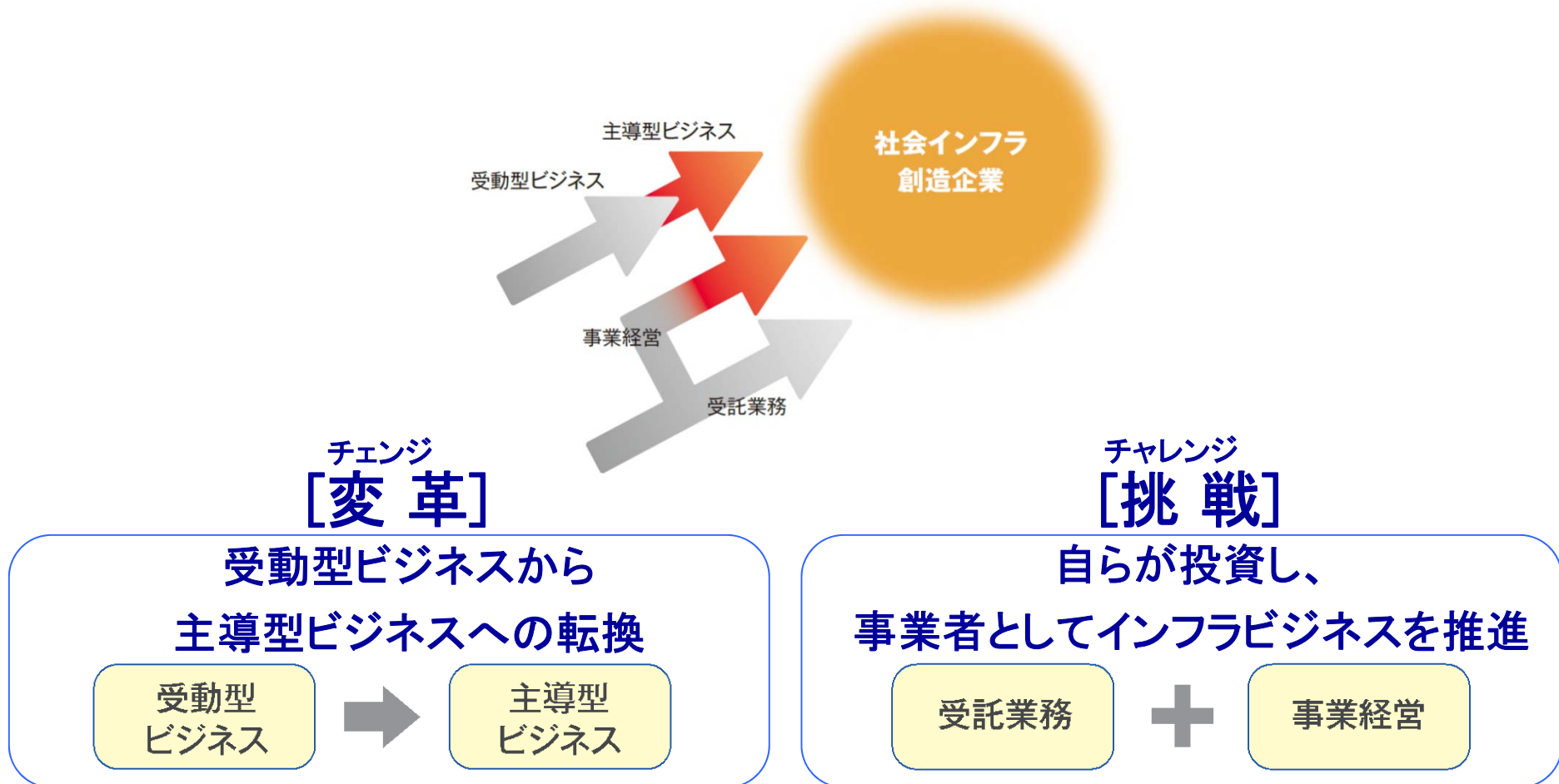
株式会社ACKグループ 中期経営計画

ACKG 2013

— 社会インフラ創造企業をめざして —

(1)スローガン

社会インフラ創造企業 ～自らが社会を創造する担い手となる～



(2)基本方針

<強みの活用>

- ◆交通運輸事業、海外事業の強みを活かし、グループの力を結集し、ワンストップで推進

<事業開拓>

- ◆「技術の深化」と「新たな事業創造」により、公共から民間へ、世界へ

<育成と連携>

- ◆国内外から人が集い、育ち、国内外シームレスな共同体の実現

(3) 目標

【2020年(第15期)ビジョン】

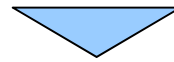
売上高	500億円以上
営業利益	20億円(対売上高4.0%)以上
組織・人材	グローバル人材150人以上増加 女性管理職15人以上増加

2. 中期経営計画ACKG2013強化骨子

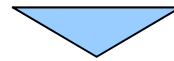


(1)これまでの経緯

ACKG2013は、平成25年9月期にスタートし、1年半が経過



基本方針である「強みの活用」、「事業創造」、「育成と連携」
に基づく施策の推進により、順調に進捗



2020年の目標達成をより一層確実なものとするため、

ACKG2013を強化

【ACKG2013】

+ 【ACKG2013の強化】 ⇒

ビジョン・
目標

(2) ACKG2013の強化方針

個の強化

グループ各社が**ナンバーワン・オンリーワンの**
技術・サービスを創造

連携の強化

グループの連携を強化し、
総合化した技術・サービスを提供

3軸市場の 競争力強化

国内公共、国内民間、海外の
3軸市場の特性を踏まえ、競争力を強化

(3) ACKG2013の強化目標

1) 重点化事業による事業拡大

- ・2020年の売上高500億円以上の確実な達成
 - ナンバーワン・オンリーワンの技術・サービスの開発
 - 重点化事業への投資の強化

2) 人材の確保・育成

- ・2020年までに、従業員数を現在の1.5倍以上の規模に
 - 多様な人材を確保・育成する仕組みの構築
 - 就労環境・処遇の改善

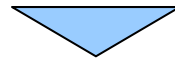
3) 基盤整備

- ・グローバルネットワークの構築と、3軸市場におけるグループ連携を、的確に循環させるためのマネジメントの実現
 - 業務連携、人事、組織体制、情報共有などの基盤を強化

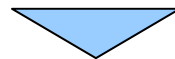
(4)平成27年9月期に向けた組織体制

1)組織改革の方針

国内公共、国内民間、海外の
3軸市場の特性を踏まえ、競争力を強化



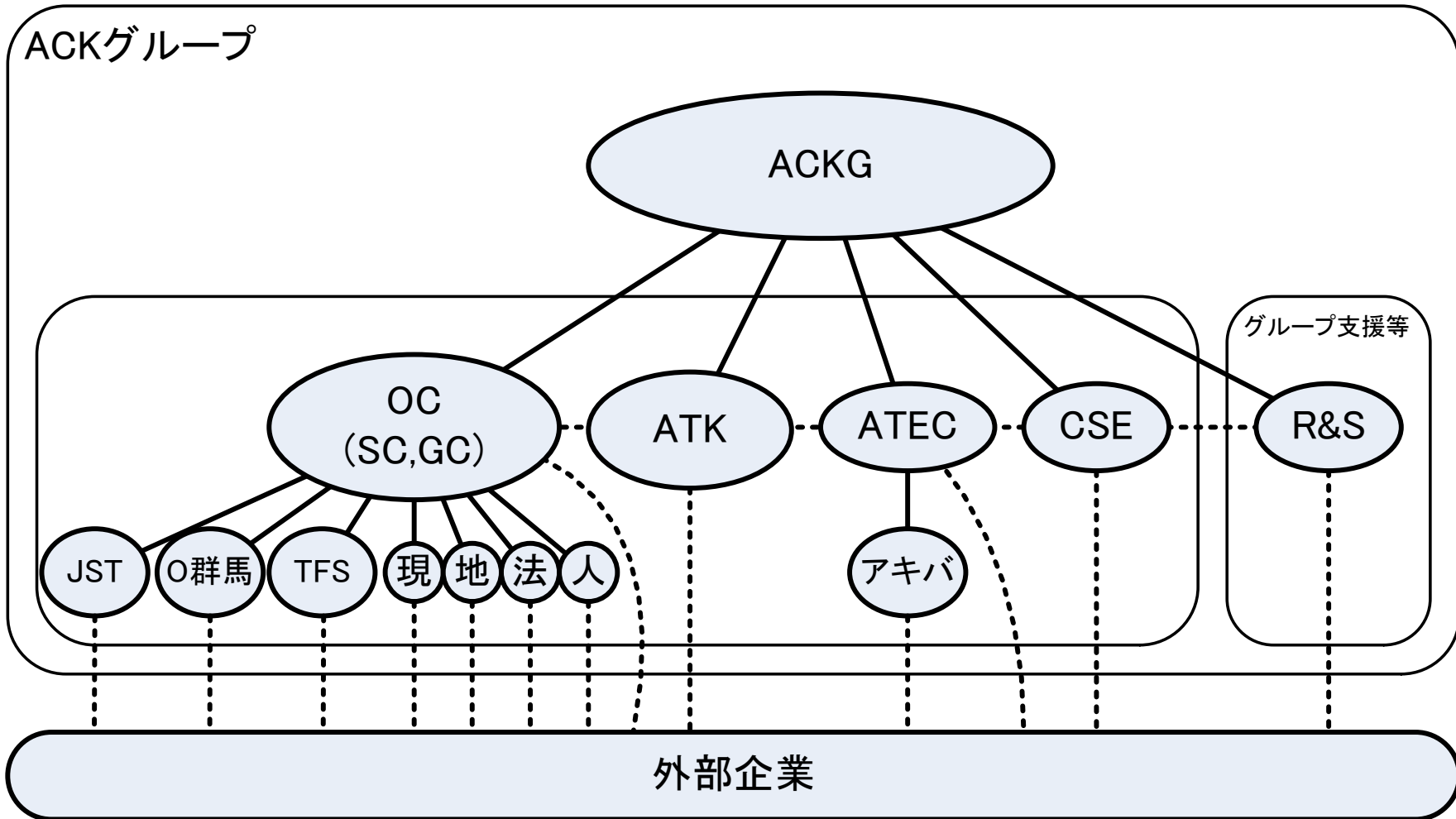
3軸市場の競争力強化に向け、市場毎に組織を集約



OCが国内公共市場のリーディングカンパニーに
ATKが国内民間市場のリーディングカンパニーに
OCの海外事業部門が海外市場のリーディングカンパニーに

(4)平成27年9月期に向けた組織体制

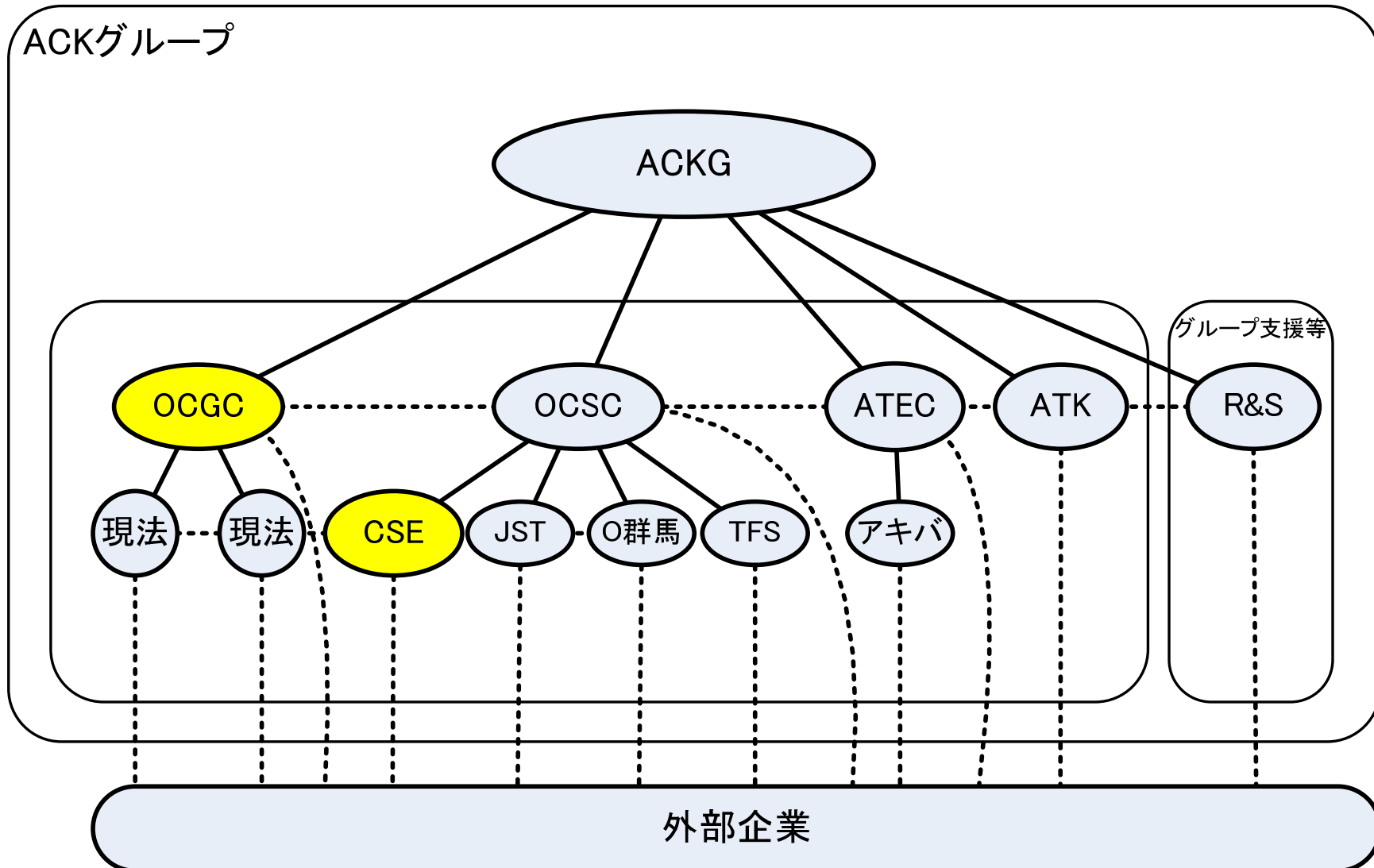
2)現状の組織体制



※SC:国内事業部門 GC:海外事業部門

(4)平成27年9月期に向けた組織体制

3)平成27年9月期に向けた組織体制



(4)平成27年9月期に向けた組織体制

3)平成27年9月期に向けた組織体制

国内公共

OCSC : **国内公共市場を中心**に事業を推進

C S E : OCの子会社として、OCと連携し、
上下水道・廃棄物分野の**高度化、総合化、全国展開**を推進

A TEC : **空間情報技術、点検・検査・診断・計測技術等の**
高度化を推進

国内民間

A T K : **国内民間市場を中心**に事業を推進

海外

OCGC : ACKGの子会社として**独立し、海外市場**の事業を推進

グループ支援等

R & S : グループ**支援サービス**の高度化・総合化、
ベンチャー事業の開拓を推進

感じてますか 未来の鼓動

『世界の人々の豊かなくらしと夢の創造』を目指し、今の業容にとらわれずサービス領域の無限大へ今後もチャレンジし続けます！



本資料および本説明会の説明には、当社（連結子会社を含む）の見通し、目標、計画、戦略などの記述が含まれております。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社の実際の業績または展開と異なる可能性があります。

質疑応答



APPENDICES

— 主要トピックス —



主要トピックス(インフラ保全・運営管理)

◇インフラ保全実証実験

- 保有するICTシステム等を自治体へ貸与し、
実際の業務で活用する過程で、管理者目線で検証
- 道路管理者の維持管理における潜在ニーズの把握、
道路維持管理のあり方を検証

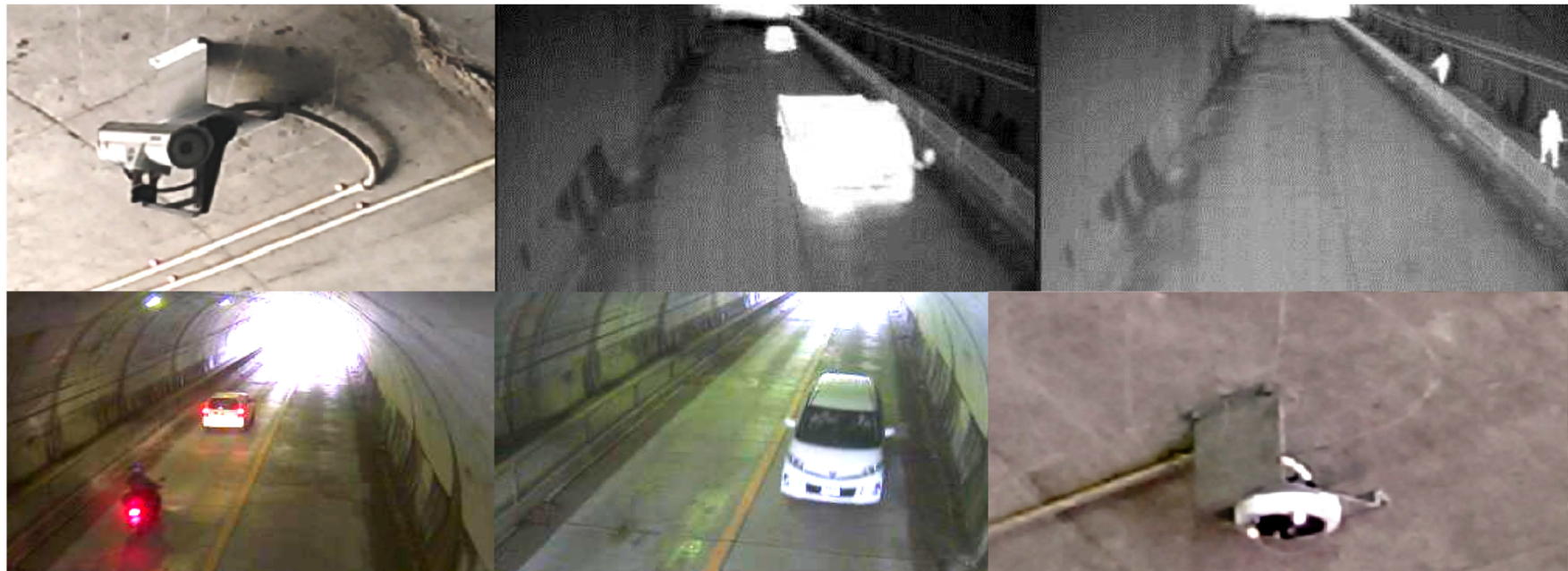


▲実証実験の進め方

主要トピックス(インフラ保全・運営管理)

◇異常検知システムを用いたトンネル監視の社会実験

- 神戸市北建設事務所のご協力の下、
新有馬トンネルでトンネル監視の社会実験を実施
- 損傷が激しく、早急に補修が必要なトンネルに
異常検知システムを設置し、補修工事実施までの間、監視

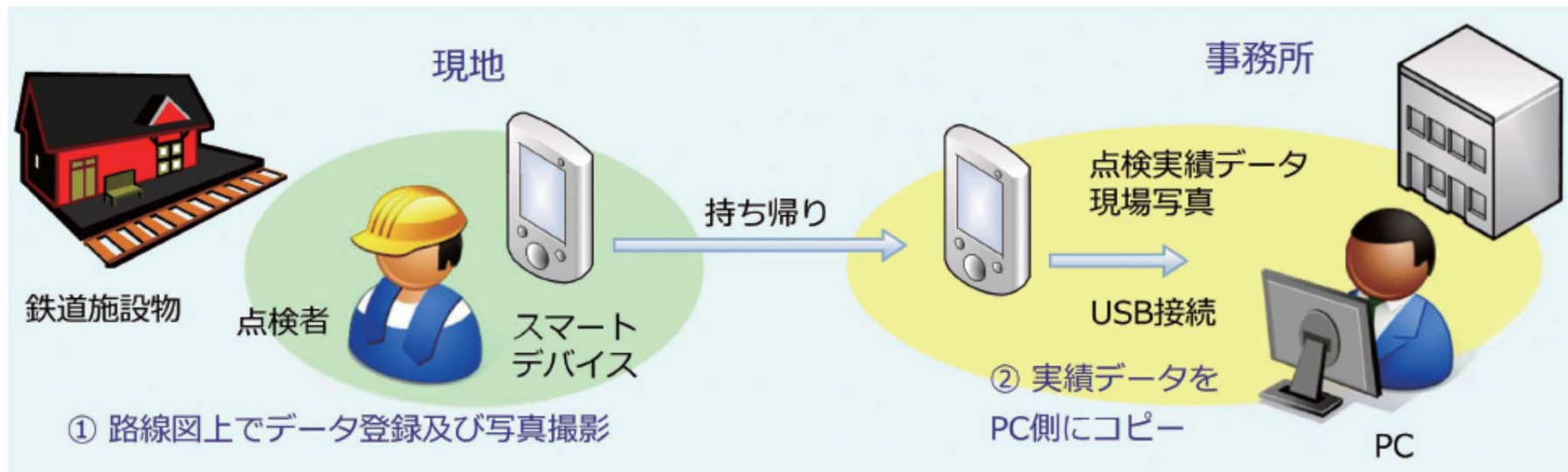


▲サーマルカメラ・Webカメラ画像例

主要トピックス(インフラ保全・運営管理)

◇スマートデバイスを活用した鉄道施設物定期検査の効率化

- 徹底した安全基準、保守管理が求められる鉄道駅舎構造物点検について、基準の提案から点検評価まで、総合コンサルティング
- スマートデバイス及び専用アプリケーションの導入により、
点検作業を、効率化及び省力化

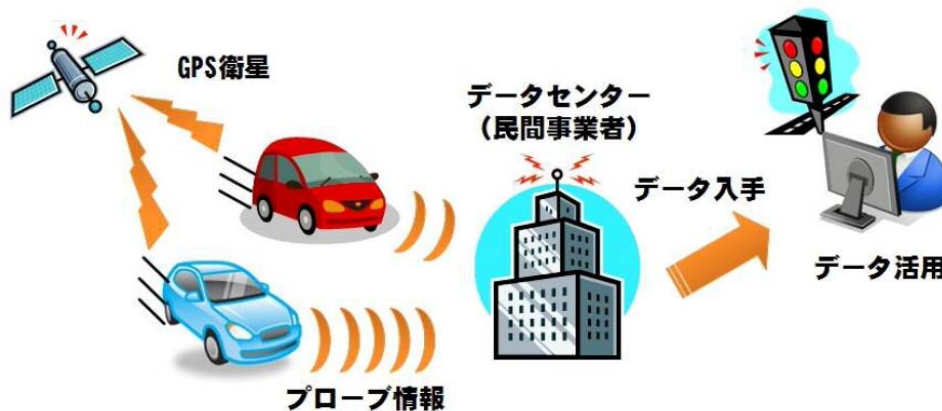


▲スマートデバイスを活用した鉄道施設物点検イメージ

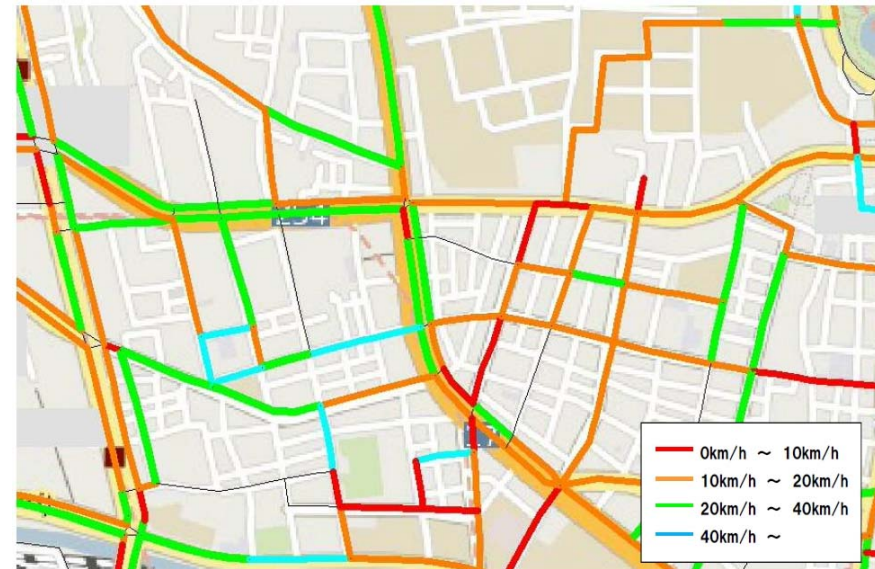
主要トピックス(交通の高度化・総合化)

◇プローブ情報を活用した交通問題分析・検討

- 交通量調査を行わず、プローブ情報により、詳細な交通状況(交通量、経路、速度、急ブレーキ等)を把握
- プローブ情報の解析により渋滞箇所、原因を特定
- 交通シミュレーションによる信号制御の改良検討を実施



▲民間プローブ情報収集の仕組み



▲渋滞区間の抽出

主要トピックス(海外新規開拓)

◇マニラ首都圏の公共交通整備

- 既存の交通インフラの拡充や新たな公共交通ネットワークの計画・整備に貢献
- 慢性的な交通渋滞の解消により経済発展と環境改善に導く



▲マニラ南部への延伸が計画されている
LRT Line1



▲マニラ中心部への通勤・通学の
利便性向上に貢献する都市鉄道

主要トピックス(海外新規開拓)

◇ワンストップ対応を提案し、大型橋梁の案件を連続受注

○調査から施工監理、ソフトからハードのワンストップを提案、
総合性が評価され、大型橋梁案件を連続受注

○ウガンダのナイル橋:約13億円

○バングラディッシュの3橋梁:約36億円



▲ Gumti Bridge (Bangladesh)
完成予想パース



▲ Kachi Pool Bridge (Bangladesh)
完成予想パース

主要トピックス(災害復旧・復興)

◇陸前高田市の高台移転をCMRとしてマネジメント

- 津波で街全体が流され、甚大な被害にあった陸前高田市において、仮設住宅での生活を余儀なくされた市民の、高台移転事業
- CMRの一翼を担い、事業全般をマネジメント、一日も早い高台移転に向け、事業を推進中



▲巨大ベルトコンベアの導入により、急ピッチで盛土工事が進んでいる



▲完成予想図

主要トピックス(災害復旧・復興)

◇ 島根県豪雨災害の復旧支援

- 平成25年7月28日に発生した豪雨は、島根県内での観測史上最大の降水量を記録し、甚大な被害を受けた
- 島根県をはじめ、8つの自治体から支援要請を受け、道路などの公共被害、水路などの農業被害の、復旧を支援



▲名賀川氾濫による水田、耕作道の被害
(津和野町名賀地区)



▲被災調査のようす(津和野町添谷川)

APPENDICES

— 連結決算詳細 —



連結貸借対照表

(単位:百万円)	前期		当期		増減額	
流動資産	20,809	(82.5%)	24,179	(83.6%)	3,370	・受取手形及び売掛金の増加等の影響
固定資産	4,371	(17.3%)	4,707	(16.2%)	336	
資産合計	25,193	(100.0%)	28,892	(100.0%)	3,699	
流動負債	18,161	(72.0%)	21,157	(73.2%)	2,996	
固定負債	2,010	(7.9%)	1,345	(4.6%)	▲665	・支払手形及び業務未払い金、JV関係預り金の増加等の影響
負債合計	20,171	(80.0%)	22,502	(77.8%)	2,331	
資本金	503	(1.9%)	503	(1.7%)	—	
資本剰余金	747	(2.9%)	747	(2.5%)	—	
利益剰余金	3,986	(15.8%)	5,222	(18.0%)	1,236	
純資産合計	5,021	(19.9%)	6,389	(22.1%)	1,368	・当期純利益増加等の影響
負債・純資産合計	25,193	(100.0%)	28,892	(100.0%)	3,699	

※前期:H25/09期 第2四半期 当期:H26/09期 第2四半期

連結損益計算書／受注高

	前期		当期		増減額	(百万円)	
売上高	12,809	(100.0%)	18,098	(100.0%)	5,289		・受注残高の増加と生産体制強化による売上高増加
売上原価	10,122	(79.0%)	13,720	(75.8%)	3,598		
販売費・一般管理費	3,390	(26.4%)	3,565	(19.7%)	175		・売上高増加により営業利益が増加
営業利益	▲703	(▲5.4%)	812	(4.5%)	1,515		
経常利益	▲525	(▲4.1%)	870	(4.8%)	1,395		
当期純利益	▲181	(▲1.4%)	650	(3.6%)	831		
受注高	15,398	----	18,575	----	3,177		・海外事業で大幅増加

※前期:H25/09期 第2四半期 当期:H26/09期 第2四半期

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	前期	当期	増減額	
営業活動による キャッシュフロー	▲1,907	▲2,275	▲368	・稼働案件の増加に伴い、 運転資金が増加
投資活動による キャッシュフロー	▲169	▲414	▲245	・M&A等による投資増加
財務活動による キャッシュフロー	4,735	5,546	811	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	4,355	5,125	770	・運転資金の増加に伴い、 借入増加

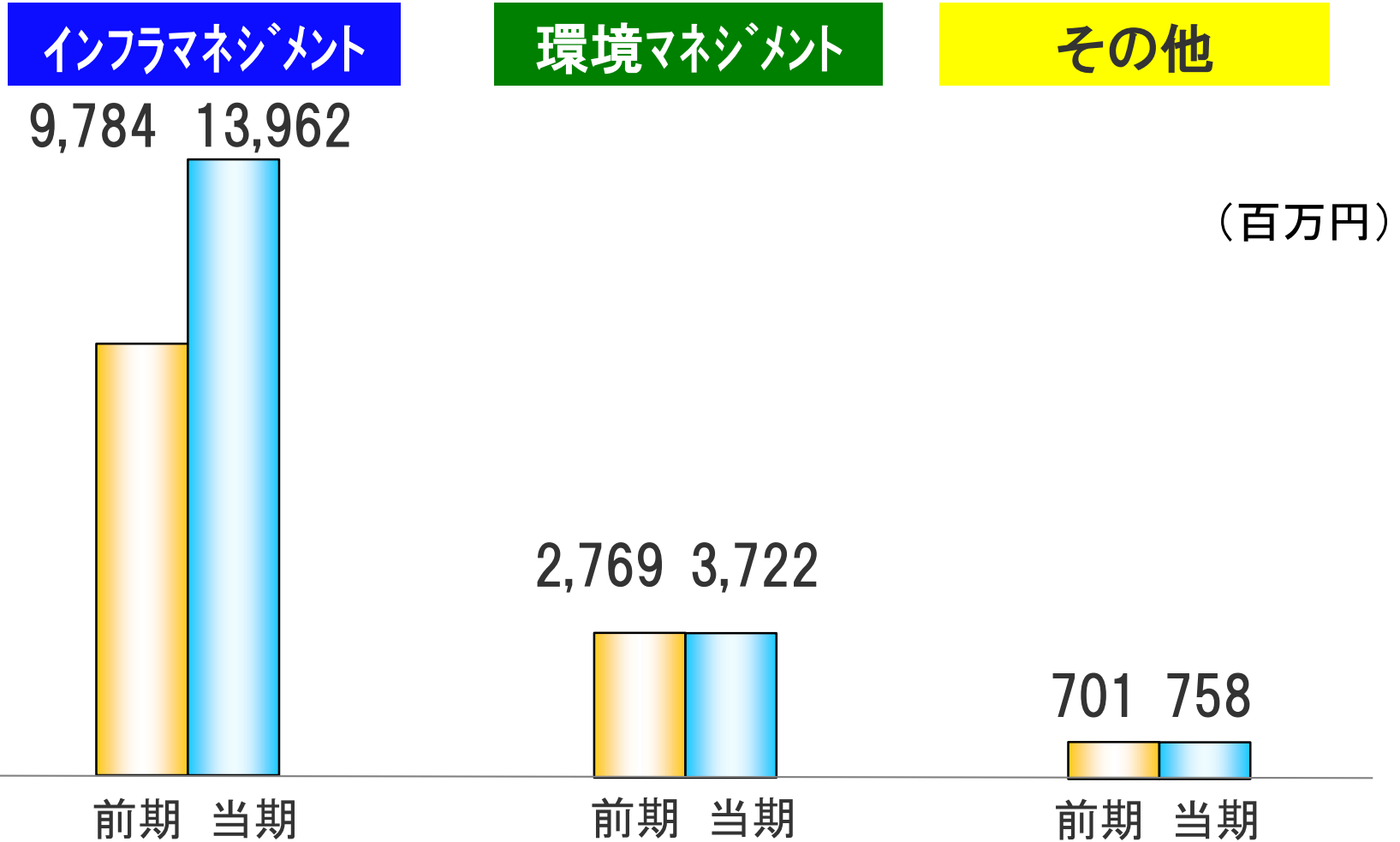
※前期:H25/09期 第2四半期 当期:H26/09期 第2四半期

指標関係(連結)

	単位	前期	当期
1株当たり当期純利益(EPS)	(円)	▲35.66	126.83
自己資本比率	(%)	19.9	22.1
自己資本純利益率(ROE)	(%)	▲3.6	10.7
総資産経常利益率(ROA)	(%)	▲2.1	3.2
株価純資産倍率(PBR)	(倍)	0.56	0.58

※上記は、前期:H25/3/29(548円)、当期:H26/3/31(729円)
 の株価の終値をもとに整理

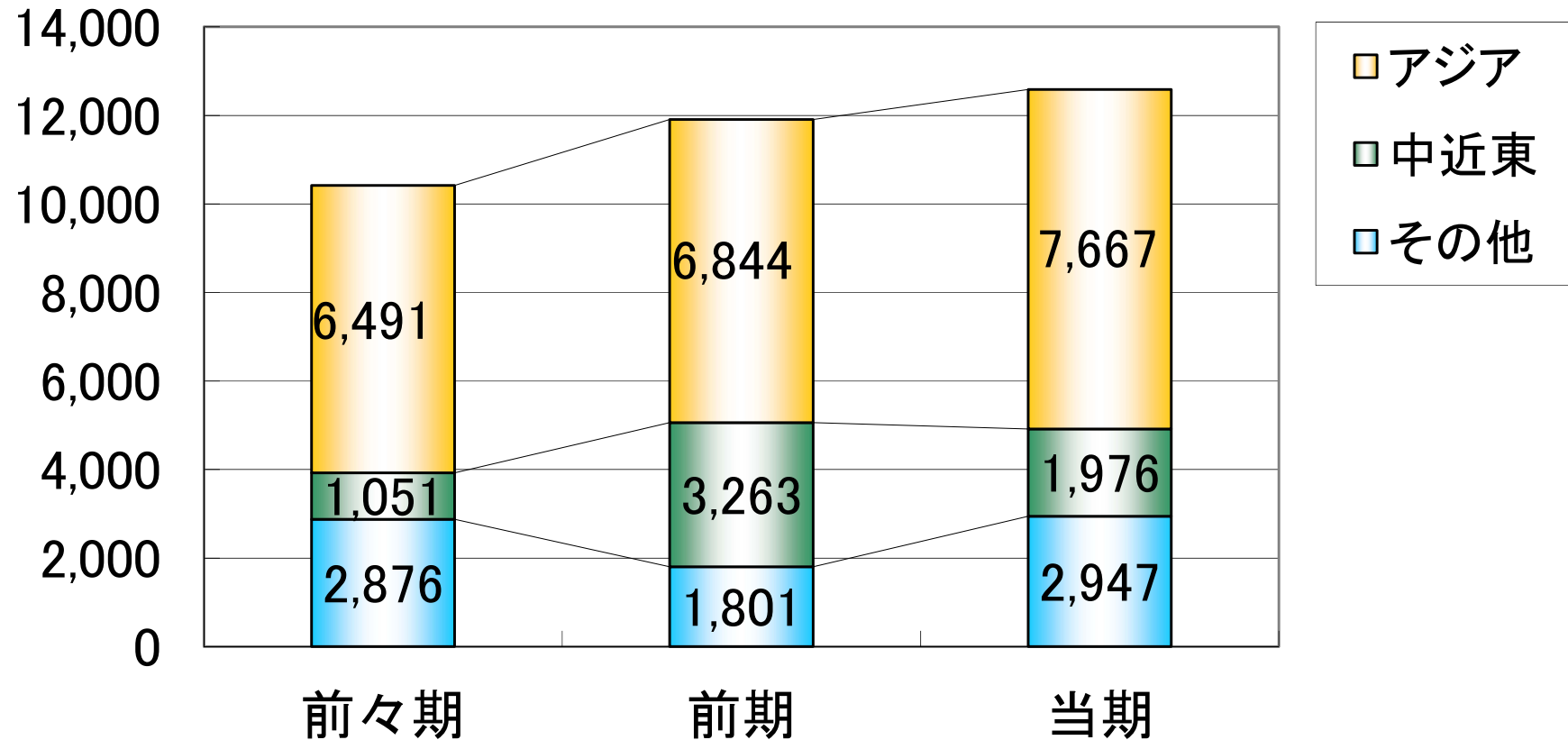
セグメント別売上高について



※前期:H25/09期 第2四半期 当期:H26/09期 第2四半期

海外地域別受注高 通期見込み

(百万円)



※前々期:H24/09期 前期:H25/09期 当期:H26/09期(見込み)

お問い合わせ先



JASDAQ

銘柄略称: ACKG

証券コード: 2498

〒151-0071

東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館

TEL: 03-6311-6641(代) FAX: 03-6311-6642

URL: <http://www.ack-g.com>

(銘柄略称: ACKG / 証券コード: 2498)

問合せ 統括本部 森田 信彦

e-mail: ir-ackg@ack-g.com

本日はご多忙の中、
弊社の決算説明会にご来場いただき、
誠にありがとうございました。

